

【町長挨拶】

おはようございます。まず、昨夜 11 時 15 分に青森県東方沖で発生した最大震度 6 強の地震について、本町では今のところ大きな被害は報告されておりませんが、引き続き各施設の点検を行って参ります。

今日の記者会見でございますが、5つの項目について担当課から発表させていただきます。

【内容発表】

1 令和 8 年矢巾町消防団出初め式の開催について（総務課防災安全室）

毎年実施しております矢巾町消防団出初め式は、矢巾町消防団の団員・消防ポンプ車両等による行進、式典を行い、消防団員の士気高揚と町民に対する防火・防災意識の向上を図るものです。日時は令和 8 年 1 月 11 日(日)、行進開始は午前 10 時 25 分、式典開始は午前 10 時 40 分を予定しております。やはば一く駐車場から行進を始め、矢巾ショッピングセンター内駐車場の会場へ向かいます。内容は、全団員および全消防ポンプ車両等による行進を行ったのち、年頭にあたり統監から訓示を頂き町消防団の士気高揚を図ります。参加者は、町消防団員約 250 名と矢巾分署員 21 名を予定しております。過去の実施状況を次のページに掲載しております。

2 令和 8 年矢巾町交通指導隊初点検の実施について（総務課防災安全室）

こちらも例年、出初め式の前に実施しているもので、新年を迎え、町民が悲惨な事故の犠牲者とならないよう、道路の交通に起因する危険を防止し、交通の安全の確保を図るという決意を新たにするとともに、矢巾町交通指導員としての規律及び交通安全指導力の充実を図ることを目的としております。日時は令和 8 年 1 月 11 日(日)午前 9 時 20 分から、場所は矢巾町活動交流センターやはば一くで行います。主催は矢巾町交通指導隊（事務局は矢巾町役場総務課防災安全室）、参加者は矢巾町交通指導員 15 名のほか、矢巾町長、副町長、教育長、各地区交通安全協会、紫波警察署を予定しております。

3 おそなえ餅贈呈式について（産業観光課）

岩手中央農協もち米生産部会によるおそなえ餅贈呈式を行います。町へのおそなえ餅贈呈の後、もち文化の伝承・食育活動の一環として町内保育施設、認定こども園へおそなえ餅と切り餅の贈呈を行います。日時は 12 月 26 日(金)午前 10 時から。場所は矢巾町役場 1 階町民ホール。内容は、おそなえ餅及び切り餅の贈呈として、今回はニチイキッズやはば駅前保育園の園児が代表受領を行います。当日は岩手中央農協もち米生産部会矢巾支部長の佐々木隆則様も参加いただく予定です。

4 鏡開き昼食会について（産業観光課）

岩手中央農協もち米生産部会に贈呈いただいたお供え餅と切り餅に感謝し、矢巾町立煙山保育園の園児とともに鏡開きを行い、今年 1 年間、風邪など引かないようみんなが健康でいられることを祈願しながら、お餅料理をいただきます。日時は令和 8 年 1 月

7日(水)午前11時から、矢巾町立煙山保育園にて行います。内容は、鏡開き及び昼食会です。主催は矢巾町農業対策会議農産部会です。

5 矢巾町サステナブルアワード2025の開催について（企画財政課）

矢巾町では、町内企業のサステナブル経営を推進し、持続可能な地域経済の活性化を目指すことを目的として、矢巾町サステナブルアワード2025を開催します。こちらは矢巾町サステナブルアワード2024に引き続き第2回の開催となります。当日は、表彰式と表彰企業による取組発表が主な内容となります。日時は令和8年1月28日(水)午後1時30分から、矢巾町公民館3階大研修室にて行います。町内企業のサステナブル経営の輪を広げる取り組みとなりますので、ぜひ報道機関の皆さまにも取材にお越しいただければと思います。

【質疑】

《令和8年矢巾町消防団出初め式の開催について》

●記者

矢巾町は今年で3村合併70周年を迎えたが、これに関連した企画はあるか。

●担当者

特に新しい企画はなく、例年どおり実施するもの。

《その他》

●記者

年内最後の定例記者会見ということで、今年は合併70周年など、特別な1年になったと思うが、町長にとって、この1年を振り返りと、来年への抱負を伺う。

●町長

今あったように、徳田村・不動村・煙山村の3村合併から70周年という節目の年を迎えました。この年を迎えられたのは先人・先達の多くの方々のおかげです。

現在、合併した時の倍くらいの人口がありますが、今回の国勢調査では5年前と比べて減少する見込みで、矢巾町でも人口減少や少子高齢化は避けては通れないため、この状況を踏まえて今後の道筋を示していかなければいけません。その中で、内丸メディカルセンターの機能移転などがありますので、「関係人口」「交流人口」を創出することに力を入れていきたい。矢巾町に住んでみたい、住んで良かったと言えるまちづくりができれば一番理想であるが、まずは矢巾町に行ってみてみたいと思われるよう、西部地域の活性化などに取り組みたい。また、クマの出没が矢巾町内でも相次いでいるが、住み分けできるよう、国や県と連携しながら里山の整備に力を入れたい。周辺部では人口減少に伴い、空き家が増えてきているため、修理・リフォーム・再生し、空き家にしない取り組みを進めたい。農業者の後継者不足の問題も考えていかなければいけない。矢巾町はこれまで均衡がとれた街づくりを今までやってきたので、一気に人口を増やすというよりは、着実、堅実に進めていきたい。そのためには盛岡広域の3市5町との連携をより強化していかなければいけない。盛岡市の内館市長には広域のトップリーダーとしてやってもらいたい。

来年は、町民との対話、地域コミュニティの活性化のため、現在実施している地域みらいづくり会議を継続すること。地域コミュニティの核になるのが家庭なので、それがしっかりしなければいけない。

また、これからは教育です。新しい教育長には教員の働き方改革などに取り組んでもらいたい。町職員についても、困ったことがあれば係内、課内、他課との連携を図るよう言っているがなかなかできていない。我々は全体の奉仕者であることの意識を忘れずに職務に取り組んでもらいたい。

2025年を振り返って、一言でいえば、波乱万丈な年であったと私は思います。来る2026年は大きな事故や災害がもし起きてもしっかりサポートできる体制をつくり、クマ問題に対しても対応し、基本理念にある「みんなで築く 躍動感あふれ幸せな未来へ進化するまち やはば」をみんなで作り上げていきたいとします。

(9時55分 終了)